

山椒は小粒でも...



Vol.54

海ゴミでつながる関係人口



4月9日、津市のヨットハーバーのそばの阿漕浦海岸でのゴミ掃除に環境課長と参加しました。ウミガメネットワーク

を話す機会をいただき、ハンドマイク片手にさながら街頭演説のごとく、以下のことを訴えました。



三重の呼びかけでアカウミガメの産卵シーズン前に海浜に打ち上げられた流木やゴミなどを片付けようというものです。障害物があると波打ち際からウミガメが這って上がってこられないのだそうです。昨年8月の豪雨で大量に打ち上がったままになっています。一部はすでに再び流れ出し、ひよ

としたら鳥羽の海岸にも流れ着いているかもしれません。

参加者は小さな子どもからお年寄りのかたまで180人ほど。大きな丸太や切り株はチェーンソーで切り刻むなどして軽トラに載せて運びました。あまりの量の多さにみんな様に驚きの声を上げていましたが、悲しいかな鳥羽の海岸では見慣れた光景です。

前半1時間の作業を終え、休憩中に鳥羽の海ゴミの現状

⑤毎年10月に答志島の奈佐の浜で東海3県の人が集まる大きな海岸清掃イベントがあること。船にも乗れて、地元のおいしいものを食べて、集会所で研修会をしていること。ボランティア団体によることも充実した、ある種工コツアーともいえそうな活動なので、ぜひ参加してほしいこと。

①伊勢湾に流入するゴミは年間約1万5千トンあり、そのうち4分の1〜3分の1が鳥羽の海岸に流れ着くこと。

②これまでのようにボランティアの協力で漂着したものを片付けているだけでは限界があり、いつまでたっても解決しないこと。

③そもそも海へゴミを流出させないこと、ゴミの発生を元から断つことにすること。

④そのためには伊勢湾口に位置している鳥羽、中でも離島部で海ゴミと格闘している様子を上流域の人に知ってもらうことが重要で、私は今日、そのためにここへ参加したと聞いて。

今回の清掃活動には、各種団体、学生、県議会や市議会のみなさんもたくさん参加されています。会議やシンポジウムのような改まった席で発言するのも良いですが、こういう屋外のリアルなゴミの山が積み上がったところで話すのも、これまた効果的だと思います。ゴミをきっかけに鳥羽の色んなことを聞かれて、おまけにスタンプと一緒に海の家での昼食まで参加し、「熱い思いの鳥羽市長は最後まで参加してくれたい」とうれしいレツテルを貼っていただきました。



Vol.212

市民課人権・市民交流係 ☎ 1126

〔昭和22年〕より毎年5月5日の「こどもの日」から1週間を「児童福祉週間」と定め、児童福祉の理念などを普及啓発しています。

この取り組みの一環として、同省では児童福祉週間の標語を毎年募集しており、今年度は愛知県の田中豪さん(15歳)の作品が選定されました。

『児童福祉週間』

子どもたちが健やかに育つことは、私たち国民みんなの願いです。

その基盤となる家庭では、コロナ禍の外出自粛などの影響やテレワークの増加によりおうち時間が増えた事で、イライラなどからストレスが募り、知らぬ間にわが子に虐待する事例が起きています。

子育て中の不安やその負担に頭を抱える子育て世代が発しているSOSは、とても小さく、周囲が気付きにくいようにその兆候を見逃さないように地域一丸となって早期発見・早期対応することが必要になります。

厚生労働省では、子どもや家庭、子どもの健やかな成長について国民全体で考えることを目的として、1947年

令和4年度 『児童福祉週間』標語

見つけたよ 広がる未来と つかむ夢

子どもたちが夢や希望に満ちた未来をつかみとるためには、それぞれの目標を応援する環境を整備することが求められます。

また、子どもたちが家庭や地域においてたくさん愛情に包まれ、いきいきと成長することのできる社会をつくることも重要です。

